

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立西濃高等特別支援学校

学校番号

110

自己評価

学校教育目標	<p>企業就労による社会自立に向け、高い志をもち、専門性の高い知識・技能を身に付け、地域や社会に貢献できる人間性豊かな生徒を育成する。</p> <p>① 夢や目標の実現に向け、様々な活動に挑戦し、自ら選択・判断できる生徒</p> <p>② 専門性の高い知識・技能及び態度を身に付け、社会人・職業人として自立できる生徒</p> <p>③ 豊かな人間関係を築き、進んで地域や社会に貢献できる生徒</p>
--------	---

評価する領域・分野	1「教育活動・学習指導」	
現状及びアンケートの結果分析等 <small><%表記について> (生徒%, 保護者%) (生 %) (保 %) (___ %) は昨年度より高いところ</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針や指導の内容をわかりやすく伝えている(生 95%, 保 88%) ・学校は地域と連携して特色ある教育活動を展開している(生 75%, 保 91%) ・学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、生徒は意欲的に取り組んでいる(保 86%) ・授業は、生徒一人一人に合った教材等が準備されている(生 81%, 保 82%) ・学校の授業内容や進度は、生徒の実態に即している(保 82%) ・学校は、授業や学校行事等を参観する機会を設けて、教育活動について積極的に公開している(保 92%)。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望や学習状況を踏まえたきめ細かな指導の充実 ・教育課程、教育内容を十分検討したうえでの基礎的・基本的な学習内容の定着と、社会生活で活用できる実践力の伸長 ・総合産業科における専門性の高い職業教育、校内研修・研究の推進 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会（教育課程の検討、立案） ・教科会、専門コース会（教科の指導内容の精選と指導計画の立案） ・研究推進委員会（専門性を高める研修や研究の推進、学校・企業視察） 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で定期的な教科会、専門コース会の実施 ・生徒、保護者と定期的な二者懇談、個人懇談の実施 ・各教科・コースにおける指導内容、手だてと評価項目の整理 ・職員研修や校内研究の継続的な実施と学校視察 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の取組状況、定期考査の取組状況 ・指導と評価の年間計画の見直し状況、個別の指導計画の合意状況 ・学校評価アンケートによる理解度の状況 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査を実施し、計画的な学習への取組を促進した。 ・個人懇談を定期的に行い、生徒一人一人の取組状況を確認し、成果と課題を明確にして継続的な指導に繋げた。 ・年間を通して職員研修や研究を継続的に実施した。そこで見えてきた課題の改善を図り、必要な研修を積極的に取り入れた。 	
評価の視点	評価	
①生徒一人一人への教育支援（個別の指導計画、懇談による継続的な指導）	A B C D	
②系統的な教科指導と評価方法の確立（定期考査の実施、評価基準の設定）	A B C D	
③教員の専門性の向上（職員研修、校内研究の取組状況）	A B C D	
成果○・課題▲	総合評価	
○行事や総合的な学習の時間、自立活動など、各教科や学年、学校全体で連携して効果的な学習を行うことができた。	A B C D	
○授業参観週間や懇談、学校行事等で多くの保護者に生徒の学校での様子を見てもらい、連携して支援を行うことができた。		
▲系統的、教科横断的な指導内容、評価方法の検討を今後も続けていく必要がある。		

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画をもとに、生徒の主体的な学習活動を促進 ・校務支援システムを活用し、一人一人の実態に応じた個別の指導計画の作成 ・職員の研究や教科会等による指導内容の精選、授業実践
---------------	--

学校関係者評価 (令和7年2月20日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標を位置づけ、組織で教育活動・学習指導が行われている。行事や授業参観を通して、さらに活動の見える化に努めてほしい。 ・多面的な学習指導を行っており、社会に適合できるよう気配りがされている。 ・「教育方針や指導内容がわかりやすく伝えられている」が高い結果であったことがとても良い。 ・各種通信の電子配信によって、より学校の様子が分かりやすくなった。 ・適切に学習指導されている。クラス平均を上げるより、個々のレベルアップを目指してはどうか。 ・アンケート結果が高評価なのは、職員一人一人が高いスキルと意識をもっているからだと思う。

評価する領域・分野	2「生徒指導・教育相談」	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ではいじめや差別を許さず厳しく対応している(生90.8%,保80.3%) ・学校の先生は、生徒みんなと信頼し合って活動している。(生92.3%,保85.1%) ・学校の先生は、自分の将来のことなどについて親切に相談に乗ってくれる。(生95.3%) ・学校の先生は生徒に愛情をもって接している(生80%,保83.5%) 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な教育相談及び全校体制による日常的な教育相談の実施 ・発達支持的生徒指導の徹底 ・問題行動に対し、未然防止・早期発見・早期対応に努めた組織的対応 ・交通安全意識と交通マナーの向上 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部、教育相談担当、各学年、特別支援コーディネーター ・外部専門家との連携(教育委員会、スクールカウンセラー(SC)、警察等) 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ガイダンスの開催(情報モラル教育、交通安全教室、薬物乱用防止) ・各種アンケートの実施(いじめ防止、SNSチェック、学校生活) ・教育相談の充実(SCの定期面談、日常的な教育相談) ・特別活動、課外活動の充実(部活動、委員会活動、学校行事への取組) 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動等の集計結果 ・行動・言動の様子や変化 ・各種アンケートの記入状況、教育相談実施状況 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による、各種ガイダンスを実施。委員会活動の中で、年間を通じた意識付けが行えるよう取組を実施。(生徒総会、自転車点検等) ・アンケートや日常の様子などから、問題を抱える生徒の把握に努めた。 ・相談ツールなどを用いながら、積極的かつ継続的な声掛けを実施。 ・特別活動(委員会、学校祭)の取組の中で主体的な活動を支援した。 ・校則について生徒会からの意見を受け、全校で協議を行った。 	
評価の視点	評価	
① 問題行動、交通事故数、欠席・遅刻・早退などの出席状況の変化	A	B C D
② アンケートの記述内容と対応状況(教育相談、生徒指導委員会の開催)	A	B C D
③ 特別活動の取組状況	A	B C D
成果○・課題▲	総合評価	
○アンケートや日常の様子などから教育相談につなぐことで、生徒の悩み等に対して個々の状況に応じた働きかけや関わりを継続的にもつことができた。	A	B C D
▲卒業後の生活を見据えた自己指導能力の育成		
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を分析し、生徒の長所、困り感を把握し支援に生かす。 ・自己指導能力を育成するために自ら考え、選択し、決定するといった自己決定の場を提供する。 	

学校関係者評価 (令和7年2月20日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果に「信頼」の二文字あり。生徒指導は、保護者との連携や信頼関係が重要である。定期的なコミュニケーションの場を作してほしい。 生徒個々に合わせた指導を心がけていると感じる。いじめなどにも目配り気配りされている。 生徒と先生の信頼関係が築かれていることがうかがえた。生徒一人一人の良いところを伸ばしてほしい。 これからも、子どもたちの特性や個性を理解・把握しサポートしてほしい。アンケート以外で困りごとを把握することも努めてほしい。 生徒個々の課題をリストアップし、本人と保護者が一緒になって向上を目指すとうい。 定期的に個別指導を行うことにより、社会に出て必要なことを指導されていると思う。モラルや人権等、今後も学びを深めてほしい。
--

評価する領域・分野	3「進路指導」			
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p> <p><%表記について></p> <p>(生徒%, 保護者%)</p> <p>(生 %) (保 %)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の良さや可能性を伸ばせるような工夫 (生 95.4%、保 92.5%) 進路に関する連絡や情報をわかりやすく伝えている (生 98.5%、保 89.5%) 生徒の実態を的確に捉えている (— %, 保 79.1%) 進路指導において、関係機関と連携している (生 70.7%、保 88.0%) 進路の実現を目指した積極的な学習 (生 98.5%、保 98.6%) <p>※昨年度の結果に比べると、下線部以外の項目で大幅に評価が上がっている</p>			
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身の自己理解(特性や就職への希望等)を深め、成長に繋げることができる生徒を育てる。 自己理解に関わる時間を柔軟に設定する。 外部への発信に関わる具体的行動を多くする。 本校の進路に関わる蓄積された情報を地域へ発信する。 			
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 学年会、各分掌間(生徒の課題に対する共通理解を深める) 「可能な限り、即時評価・即時対応をしよう」というリーダーによる校内への発信。 管理職と進路指導部や地域支援部の連携と協力体制。 組織力、データの蓄積、教員の能力を発揮させるための決断力と行動力。 			
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 実習の振り返り等をタイムリーに行い、自己理解、自己受容へつなげていく。また、担任が授業よりも面談が必要だと感じた時に、生徒と面談を行い課題解決に向かえる時間を確保する。 外部への発信は進路指導部だけでなく、学校として計画的に実施する必要がある。 			
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身の自己理解度、自己受容度、精神的な安定等の総合的評価 社会(企業)や保護者・生徒の評価 就職率や正社員率と卒業生の離職率 			
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 進路の手引きを中心とした、組織的取組と現状を判断した柔軟で素早い対応 各学年の課題に応じた、段階的な取組 ホームページ、メディアを活用した情報発信 地域(自治体)、企業等が参加するセミナー等での積極的な発表 担任等の進路に関する知識・経験値の向上 			
評価の視点	評価			
① 自己理解や自己評価に関わる授業時間の有効活用(柔軟な活用)	A	B	C	D
② 本校保護者や小中学校の保護者への研修や企業の方への情報発信	A	B	C	D
③ 3年生の就職率、正社員率	A	B	C	D
成果○・課題▲	総合評価			
<p>○今年度の就職率・正社員率は、本校としては過去2番目に良い結果となった。</p> <p>○教員一人一人の生徒への対応力が向上したこともあり、保護者や生徒の評価が大幅に向上した。</p> <p>▲学校組織として計画的に(戦略的に)理解啓発等の動きをする必要を感じる。また、蓄積され始めたデータを地域の唯一の学校として発信する責任がある。</p>	A	B	C	D

<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の唯一の高等特別支援学校、コーディネートできる学校として、組織的に計画的に、地域の小中学校、高等学校、企業と関わり、更に地域に貢献できる学校としていきたい。 ・生徒自身の自己理解や教員の生徒理解については、良い方向に向かっていると感じる。生徒と教師の信頼関係が深まり、生徒自身の自己理解や進路選択が進むようにしたい。 ・成績の良い生徒達が他県へ流失している現状がある。就職面で魅力ある地域にできるよう、積極的に企業の方との対話が必要。
----------------------	--

学校関係者評価 (令和7年2月20日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上は結果として評価できる。県外流出を少なくすることも踏まえ、西濃高特の魅力を生徒に伝えるための意見交換会などの企画が必要と考える。 ・就職率・正社員率が良い結果になったことは在校生の励みになる。 ・専門コースの外部講師との連携・情報共有を図れると、子どもたちの能力向上につながると思う。 ・生徒個々がどんな仕事に向いているか、それには何が必要か考えられている。私は怪我無く安全に作業ができることが大切であると思う。 ・個別対応を心がけ、生徒に合った方向で指導されている。地域資源の活用とネットワーク形成の充実をお願いしたい。
--

<p>評価する領域・分野</p>	<p>4「保健管理」「安全管理」</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生は、医師や看護師、保健室の先生とよく相談している。(生徒61.5%、保護者80.6%) ・学校は生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。(生徒95.4%、保護者92.5%)
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が健康的な生活を実践できるよう、保健教育や保健指導等の健康教育を充実させるとともに、学校環境の衛生管理に努める。 ・生徒・職員が安全に対する危機管理意識をもち、適切な判断や行動ができるよう様々な想定での各種訓練を実施し、自分の命を自分で守れる生徒を育てる。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全委員会、保健安全部、学年会。 ・学校医及びスクールカウンセラーとの連携。 ・危機管理マニュアルに基づく非常変災時の組織
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らの健康管理の定着と清潔な校内環境の維持。 ・外部医療機関や外部講師との連携と保健教育の充実。 ・防災や救命に係る研修や訓練の実施。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康のための知識や行動の定着。 ・健康診断における受診勧告の受診率の向上。 ・命を守るための意識と、状況に合わせて行動するための判断力の向上。
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の健康観察の実施とほげんだより(毎月)による啓発活動を実施した。 ・医療機関と連携した健康診断を実施し、必要に応じて医療機関への受診を依頼した。 ・外部講師を招いての防災教室やDIG、命を守る訓練を実施した。

評価の視点	評価			
① 毎日の健康観察と清掃活動の実施	A	B	C	D
② 健康診断の実施と、健康診断の結果に基づく受診の勧告	A	B	C	D
③ 講習や訓練の実施による、非常変災時に自ら考え行動する意識の向上	A	B	C	D
成果○・課題▲	総合評価			
<ul style="list-style-type: none"> ○毎日の健康観察の実施を通して、生徒状況の把握と早期の対応ができた。 ○毎日の清掃活動と専門コースと連携した定期清掃により、清潔な校内環境を維持できた。 	A	B	C	D

<p>○健康診断の再検査の受診勧告を積極的に行い、再受診率を上げることができた。</p> <p>○自ら考え行動する防災意識の向上を図るための、防災教室や DIG を実施することができた。</p> <p>▲アンケート結果から、『教師と保健室や学校と学校医との連携』について生徒の36.9%は分からないと答えている。生徒に見えにくい部分であるため、例年低い結果になると考えられる。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症や熱中症、食物アレルギーなどより一層の対応・対策を必要とするものが増えている。教師と保健室、さらに学校医や学校薬剤師との連携はますます重要となるので、今後も必要な連絡を密にしていく。 ・線状降水帯やゲリラ豪雨等の頻度の高い災害への対応や、巨大地震やミサイル攻撃等への備えなど、自分の命を自分で守るという意識と知識、行動力を身に付けられるような防災教育を実施する。

学校関係者評価 (令和7年2月20日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康保持は日常生活に重要。生徒の健康状況を学校関係者は意識し、関係者間の情報共有のもと、生徒への適時のアプローチを継続してほしい。保健室の存在を把握してもらうことも大切。 ・安全管理については、予期せぬ災害等に備える危機管理や訓練を継続して行ってほしい。 ・学校医や薬剤師との連携を密にして、生徒が安心して過ごせる環境を維持してほしい。 ・気候の変動が激しかったり自然災害が多発したりと年々変化するので、今後もこまめに指導をお願いしたい。 ・安全第一、健康第一、規則正しい生活と十分な睡眠時間が大切。指差確認で交通事故や作業事故無しを目指してほしい。 ・「命」についてしっかり教育されている。ストレスを過度にため、発散の仕方がわからない若者が多い中、自分の命は自分で守ることを意識できるように指導・支援してほしい。

<p>評価する領域・分野</p>	<p>5「保護者との連携」「個別の教育支援計画の合意形成」</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等 <small><%表記について></small> <small>(生徒%, 保護者%)</small> <small>(生 %) (保 %)</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生は、個別の教育支援計画を保護者や関係機関と連携して作成し、将来を見通した支援をしている。(保87.9%) ・保護者や関係諸機関の意見が個別の教育支援計画に反映されている。(保80.6%) ・学校の先生は、個別の教育支援計画を家の人と相談し、自分の目標をわかりやすく説明している。(生93.8%) ・家の人の考え方や自分の希望が個別の教育支援計画に反映されている。(生84.6%)
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の教育活動に反映できる「個別の教育支援計画」を作成する。 ・保護者や関係機関と連携を図り、生徒が地域や学校において、地域社会の一員として充実した生活を送ることができるよう支援する。 ・生徒の健全な発達及び福祉の増進を図るため、保護者が主体的にPTA活動に取り組むことができるよう支援する。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援部、学年会、ケース会
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者の意見を反映できるよう「個別の教育支援計画」の作成手順を整え、懇談時に協議をする。 ・学年会及び各コースの担当者による生徒の情報を共有する。 ・PTA本部役員会、各種委員会へ協力する。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談時の協議内容 ・PTA活動への出席状況
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で話し合った意見を反映させられるように事前に記入用紙を配付し「個別の教育支援計画」作成した。 ・生徒との懇談を随時行い、その都度目標を修正及び確認を行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 懇談（定期）の他、必要に応じ関係分掌の職員や関係機関等メンバーを交え、個別の教育支援計画の内容の共有と改善に向けた協議を充実することができた。 ・ P T A本部役員会や各種委員会を年度当初の計画通り実施することができた。
評価の視点	評価
① 学校と保護者の連携状況	A B C D
② 懇談時の保護者の思いや本人の願い手立て、合理的配慮の共有状況	A B C D
③ 保護者同士の活動の交流や意見交流の状況	A B C D
成果○・課題▲	総合評価
○懇談時に本人や保護者の願い等を確認し、支援につなげることができた。 ○必要に応じて懇談やケース会議を実施、関係機関との連携を図ることができた。 ○P T A活動を年度当初の計画通り実施することができた。 ▲「個別の教育支援計画」の様式が変更になったため、作成方法や記入の仕方等を先生方に伝えるのが後手になってしまった。 ▲高校への支援が進んでいない。 ▲P T A活動への参加者が少なかった。	A B C D
来年度に向けての改善方策案	※卒業後の自立した生活を見据えた具体的な目標、手立て、合理的配慮が明記されている個別の教育支援計画を策定する。 ・生徒本人及び保護者の願いが十分に反映されるような手順を踏む。 ※P T A活動内容を精選し、会員の方が多く参加してもらえるような研修及び会員同士が交流できる場を企画していく。 ・アンケートを取り、会員の意見を取り入れた研修を計画していく。

学校関係者評価（令和7年2月20日実施）

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の教育支援計画について、学校側の説明が保護者に理解されるよう、定期的懇談や必要に応じた懇談を継続してほしい。 ・ 個別の教育支援計画には、生徒の目標を明確にして反映されており、とても良いと感じた。 ・ 保護者同士のつながりが薄く交流が少ないことが、P T A活動の参加減少につながっていると感じる。保護者同士のつながる場が増えれば、誘い合えるのではないか。 ・ 保護者は、本人が事故無く健康で仕事はできることを願っている。毎日本人に声掛けをすることが大切だと思う。 ・ 卒業後、誰も相談する人がいない状況は避けてほしいと思う。早いかもしれないが、親亡き後を見据えた自立生活について保護者と話し合う機会があると良いと思う。
------------------	--